

個人質問(6月20日) さはしあこ議員

小規模校対策として一面的に進めるな アジア競技大会の招致は議論を

さはしあこ議員は6月20日の本会議で、小規模校対策とアジア競技大会招致について質問しました。

対象校を2016年度までに統合

名古屋市では、クラス替えができない小規模校の解消を目的に、2011年度から2016年度までを計画期間とする「小規模校対策に関する実施計画」を策定しています。

優先順位の高い小規模校9校(下表)については、2016年度までの統合を目指してきましたが、西区の3校統合以外は、なかなか進まず、2014年度に「実施計画」を一部手直し。

児童数が120人を超えない中区の御園小については、2016年度までに「速やかに統合へ向けた合意を^{しらかね}図る」となり、豊臣小と白金小は今後、学級数が増えそうなことから統合計画から外れました。残る3校(南押切小、^{たいせい}大生小、高坂小)については、2016年度までの「合意を目指す」に見直されました。

合意形成に至っていない

さはし議員は、御園小と残りの3校について進捗状況を質問。

教育長は、御園小については三者(保護者、地域住民、学校)による検討を組織的に始めている、残りの3校については各学区に検討会を組織するようPTA役員らに説明しているところ、と回答。具体的には「統合に向けた合意形成に至っていない状況」と認めました。

2016年度までに統廃合めざす9校

区	学校名	相手校	中学校ブロック
西 区	幅下小	3校統合	菊井中
	江西小		
	那古野小		
	南押切小	榎小 栄生小	天神山中
中村区	豊臣小	諏訪小	日比津中
中 区	御園小	名城小	丸の内中
昭和区	白金小	村雲小	円上中
南 区	大生小	宝 小	南光中
天白区	高坂小	相生小	久方中

存続の選択肢も

さはし議員は、そもそも「クラス替えができない」ことが教育上の大問題なのか質問。

教育長は、文科省が示した小中学校の適正規模や適正配置を根拠に挙げましたが、さはし議員は文科省の提案には「小規模校のメリットの最大化やデメリットの克服を図りつつ、学校存続を図る選択肢もあり」と認めていること指摘。名古屋市としても、両方の選択肢を尊重と支援していくことを求めました。

大会招致「市民が置き去り」

続けて、さはし議員はアジア競技大会招致について、①県と市共催で立候補表明した手続きについて、あまりに短期間の決定で「市民が置き去り」では、と質問。また、②アジア競技大会を招致する意義を地域経済の振興と強調しすぎでは、③市の財政負担はどのくらいになるのか、と質問しました。

新開副市長は、①議会には、今年3月の本会議で県と招致していく旨の市長答弁があった、②親善や平和などアジア競技大会の崇高な理念に賛同していることは言うまでもなく、併せてスポーツ振興や地域経済活性化などにつなげていく視点は重要、③大会運営経費の負担割合は、これから県と調整していく。使う会場や改修費については調整していく、と答弁。

財政負担が過大にならないか

さはし議員は、福岡県が事業費を試算したところ約600億円になり招致を見送った事例を示し、名古屋市の財政負担が過大にならないか懸念を表明。財政負担について、いつまでに明らかにするのか質問しました。

新開副市長は、「効率的な運営を心がけ、できるだけ既存の施設を活用することで、過大な経費をかけないようにしてまいります」と述べ、今年9月までに検討していく考えを明らかにしました。

